

川端文学におけるアダプテーション

「伊豆の踊子」を中心に

近代文化研究所 公開講座

川端康成の作品は、50作近くの映画化のほかテレビドラマや舞台化など、多くのアダプテーションが行われ、エンターテインメントとして社会に取り込まれてきた。

活動写真弁士と生演奏による

映画上映「戀の花咲く伊豆の踊子」

『ブックレット17』では、川端の作家としての創作方法について論究しながら、作家自身のみならず社会にも影響力を持ち続けて、名作に成長した「伊豆の踊子」の意味を探り、アダプテーションの具体例として映画化6作品のうち3作品と多田淳之介脚本・演出の演劇作品について言及する。

公開講座では、本書の研究報告に加え、映画史上初の文芸映画であり「伊豆の踊子」の最初の映画化として意義ある『戀の花咲く伊豆の踊子』を活動写真弁士の解説・キーボードの生演奏付きで上映し、著者と弁士との対談でしめくくる。

2024年6月22日(土)
14:00~16:30
(開場13:30)

昭和女子大学8号館6階
オーロラホール
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
(参加費無料・対面参加のみ)

対談

片岡一郎 × 福田淳子

片岡一郎 ▶

日本大学芸術学部演劇学科を卒業。2002年からマツダ映画社の澤登翠に入門。これまで350本以上の無声映画を弁士として語っている。手がけた作品は洋画・邦画・中国映画・アニメ・記録映画と多岐にわたる。バイオリン演奏を福岡詩二、紙芝居を秋山栄より指導を受ける。海外公演も活発に行っており、現在まで22か国から招聘され公演を行った。執筆や舞台出演、声優業など、幅広く活動しており、行定勲監督作品『春の雪』、NHK大河ドラマ『いだてん』、連続テレビ小説『ブギウギ』に弁士役で出演、周防正行監督作品『カツベン!』出演のほか、時代考証、実技指導も担当した。著書に『活動写真弁士：映画に魂を吹き込む人びと』（共和国、2020・10）がある。

◀ 丹原要

東京学芸大学卒業、日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了。こども園、中学高等学校、音楽教室にて、ピアノやリトミックを中心に老若男女幅広く指導にあたっている。クラシック音楽を出発点に、「ことば、身体運動、音楽」の融合した舞台を夢見て音楽活動を続けている。近年はリトミック教育の創始者であるダルクローズの作品の研究に注力している。初めて演奏した無声映画はルネ・クレール監督『幕間（音楽：サティ）』。ジャック＝ダルクローズ作品研究会メンバー、日本ダルクローズ音楽教育学会常任理事、日本ジャック＝ダルクローズ協会会員。



▲ 福田淳子

昭和女子大学近代文化研究所研究員。昭和女子大学大学院生活機構研究科福祉社会研究専攻・人間社会学部現代教養学科 教授。専門は日本近現代文学。川端康成を中心に、文学と映画・オペラ・演劇など他芸術との影響関係について研究。主な著書・論文は『川端康成をめぐるアダプテーションの展開——小説・映画・オペラ』（フィルムアート社、2018年3月）、『夏目漱石 修善寺の大患前後』（吉田昌志・笛木美佳・福田淳子・福田委千代・山田夏樹、近代文化研究所、2022年2月）、「火野葦平と向井潤吉—従軍がもたらしたもの」（『学苑近代文化研究所紀要』2020年9月）など。

ブックレット近代文化研究叢書17

アクセス

地下鉄

東急田園都市線（半蔵門線直通）「三軒茶屋」駅下車 徒歩7分

バス

■ 渋谷駅から下記方面行きを利用し、「昭和女子大」下車（上町・等々力・田園調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布）

■ 目黒駅・祐天寺駅から三軒茶屋行きを利用し、「三軒茶屋」下車

■ 北沢駅から駒沢陸橋行きを利用し、「三軒茶屋」下車

参加申込方法

下記 URL、電話または QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/sc4amQuPTbLCqBgy6>
03-3411-5129

申込締切日 6月19日（水）

お問い合わせ 昭和女子大学近代文化研究所
電話：03-3411-5129 Mail:kinbun-admi@swu.ac.jp



近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所 近代文化研究所